

ウェストール UFO 事件 ～51年目の真実

2017年6月28日にフジテレビの「世界のなんだコレ」で放映

事件が起こったのはオーストラリア・メルボルン郊外にあるビクトリア州ウェストール (Westall) 地区のウェストール高校。

生徒や教師200人以上が1966年4月6日に校庭近くにホバリングした「円盤」を目撃。

騒ぎを聞きつけたマスコミもやってきて当日の午後6時に UFO 目撃事件としてテレビニュースで放送された。

(その映像だけテレビ局に残っていない。なぜないのかは誰にも分からなかったという。)

地元紙 Dandenong Journal も翌日報道する。

しかしその見出しには「SCHOOL SILENT What war it?」とあり、生徒たちから証言は得られなかった。

そのためマスコミは事件の詳細を報じられず、この事件は忘れ去られようとした。

だが、この事件を2006年から追跡しているシェーン氏は目撃者など391人の連絡先を突き止める。

同窓会に忍び込んで信頼を得てから話を聞いたという。

番組のためにかつて目撃した元生徒4人と農夫1人を集めてくれる。

番組スタッフがなぜ事件のことを語らなかったのかと聞くと、

「絶対に話すなと先生に言われたし、話した子は呼び出されてすごく怒られていた」という。

オーストラリア空軍を中心にかん口令が出ており、教師たちは生徒たちがマスコミと接触しないように監視することを求められたという。

わけを尋ねる教師に空軍は「目撃したのは新しい飛行機でまだ実験段階のためだ」と説明。

目撃者1. スーザンさん

「変なものが飛んでいるのを見つけたのは午前11時すぎだった。

まだ授業中だった。」

彼女は窓を見ていて空にその物体を発見、

教室は大騒ぎになり授業は中断。

生徒たちは校庭に出て行った。

(グッチ注:このスーザンさんが第一発見者か)

目撃者2. ジョイさん(女性)

「当時は近くに飛行場があって、飛行機は見慣れていたけど、あんなものは初めて見た。」

(校庭のフェンスの向こうの当時畑だったところに)楕円形で光る物体が静止していたという。

目撃者3. メアリーさん

厳しい先生だったので授業中は教室から出られず、休み時間に出た。

「いつの間にか校庭にたくさんの人がいて大騒ぎになっていた。」

私たちも急いで校庭に出てフェンスまで走っていった。

UFO だ、UFO が来たぞと全員が叫んでいた。

100mくらい離れていたけれど、異様な物体がはっきり見えた。

楕円形で銀色に光って、すごく怖かった。」

周囲はどんな感じだったのかという質問には、

「パニック状態だった。泣いている子や、倒れて救急車で運ばれた子もいた。

本当に大混乱だった。」

その物体はやがてゆっくりと雑木林の方に向かって移動して行ったという。

目撃者 4. ポールさん(男性)

謎の飛行物体が通過した畑で作業をしていた。

「ちょうどそのとき農園でニンジンを取っていた。

今は林だけど当時は畑だった。

謎の物体はあそこの学校からこっちに来た。

すごくゆっくりした動きで向こうに消えていった。

はじめはプロジェクターのようなもので空に投影していると思った。

(注:一般的なプロジェクターは1966年当時にはまだなかったので、

インタビューを受けている2017年時点の語彙を使って描写したと思われる。)

でもすぐに間違いだって気づいた。

近くに来たとき物体から熱を感じたから。」

(注:ET 宇宙船から熱気を感じたという例は珍しい)

(目撃者たちが書いた[メモ](#)が画面に出る。

そのメモには円盤型の物体が多少の違いはあるが、それぞれ描かれている。)

目撃者5. テリーさん(女性)

当時体育の授業で校庭にいて、謎の物体に最も近づいた目撃者。

「体育の授業でゴールポストのあたりにいたら

他のクラスの子たちが教室から飛び出してきた。

(注:校庭内の位置を示すために現在のゴールポストの位置を目印にしたようだ。)

私も一緒に謎の物体の方に走って行った。

そしたら畑の方に飛んでいったから、

私も学校のフェンスを乗り越えて追いかけた。」

怖くなかったですかとの質問に、

「全然！正体を知りたいという好奇心の方が強かった。」

そして物体の放つ光を追って雑木林の方へ。

そこで見たものは。

「(当時と同じ場所に来て)ちょうどこのへんだと思う。

謎の物体はあの木のあたりに着陸していた。」

(注:彼女が書いたメモには「草の上に」着陸とある。)

えっ、この距離で見たんですか？結構近いですね、というスタッフの指摘に、

「私が一番近くから見たでしょうね。」

(注:彼女のメモでは彼女から5mの距離。)

それはなんとも形容しがたい異様な姿だったという。

「高さはこのくらいかな(注:背丈より少し高い位置を手で示す)。」

大体人間の高さくらい(とスタッフが確認)。

「形は楕円形で、横幅は6, 7mくらいだったと思う。

30秒くらい着陸していたけれど、それからゆっくりと上昇して、

突然向きを変えて空に消えていった。

本当にショックだった。

正体を確かめようとしたのに体が固まって動かなかった。」

(彼女が描いた[円盤のイラスト](#)。円盤の外周にポツポツと点を書いてある)

これが彼女が描いた謎の物体。小さな穴から光を放っていたという。

「私は専門家ではないけれど、あれが飛行機だなんて絶対にありえない。

1966年にあんなものが造れるとは思えない。」

(注: 衝撃的な体験だったためか、とても具体的に記憶していて信用できる証言と見なせる。)

目撃者6. ケビンさん(男性) : 最初にシェーンさんから取材スタッフに紹介された5人の中には入っていないが元生徒の1人。

謎の飛行物体が飛び去ったあと雑木林に来たケビンさんが発見したのは？

「当時このあたりは芝生じゃなくて、もっと背の高い草が一面に茂っていた。

それを見つけたときは思わず叫んだよ。

明らかに何かが着地した跡だった。

草を回転しながら押しつぶしたようなサークルがあった。

僕は工学部だったけど、こんな跡を残す飛行機なんて考えられない。

(注:彼のイラストでは草の丈が膝の高さで0.5mと読める。サークル内の3つの穴はランディングギアの跡か。なおケビンさんは大学は工学部で、飛行機のことは高校時代からよく知っていたということだろう。)

この着陸跡はすぐ警察によって封鎖。

翌日には柴が刈られていたという。

(注:この証言はET関連の情報を秘匿しようとする警察・軍の動きを表している。)

(この事件のコーナーの最後)

4人の女性たちがそれぞれのイラストを体の前にもって「あれは間違いなくUFOよ」という。

解説

以上。番組のこの事件を紙上再現しました。

前から気になっていた事件で、いつかレポートしようと思いつつ7年もたってしまいました。

ET宇宙船の地球訪問をリアルに感じられる事件を公表できたことは良かったと思います。

なお、クロップサークル(ミステリーサークル)は着陸したET宇宙船が飛び立った跡なのかもしれない。

興味深いヒントがもらえました。

1966年当時、ET宇宙船の着陸がありえたわけです。

この当時にもスカラー砲は存在していましたが、スカラー砲が飛行機に搭載したり、人が携帯できるほど小型化した現在、もう物資的な着陸は危険すぎてできないと思います。

ETが宇宙船から外に出て少年の肩を背後から叩いた甲府事件は1975年2月23日。

これくらいがギリギリかもしれません。

なお英語圏のレポートはないか調べたらありました。

2021年の7NEWS Australia の [youtube 動画](#)です。

生徒と一緒に目撃した元教師 Andrew Greenwood が事件から55年たってから証言している。

[Wikipedia にもありました](#)。でも多くの証言間の微妙な違いを気にし過ぎて漠然としか書いていない。

日本の取材に応じてシェーンさんが集めた証言者はえりすぐりで、優れた記録になっていると思う。